



刊行のことば

北見市長 辻 直 孝

北見市は北海道の東部に位置し、大雪山系の石北峠から豊かな森林、無加川・常呂川水系を抱く肥沃な大地を経てオホーツク海に至るまで、「タマネギや白花豆などの大地の恵み」、「ホタテや牡蠣をはじめとするオホーツクの海の恵み」などの素晴らしい資源、豊かな自然環境に満ちあふれております。

無加川流域には、北海道の天然記念物に指定されている自生のエゾムラサキツツジ群落、開湯百年を超える温根湯温泉郷があり、また、その下流域に広がる丘陵地帯は、人々を魅了する美しい田園風景を織りなし、常呂川下流域には、国指定の歴史的に貴重な「常呂遺跡」そして網走国定公園に属するワツカ原生花園があります。

北見市は人口約十二万人のオホーツク圏最大の産業・経済の中核都市として発展しています。

平成十八年三月五日、北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の一市三町広域合併を成し遂げ、新「北見市」が誕生してから十年余が過ぎました。この合併に至るまでには、多くの皆さんの英知を集めた取り組みがあり、市民の皆様並びに関係機関・団体等に対し、改めて心より感謝を申し上げます。

今、北見市は旧市町に四つの自治区を設置して、地域特性を最大限に生かしたまちづくりをしております。

この地に行政が誕生してから百年以上を経て、先人たちが営々と築き上げた北見市が今日まで歩んできた歴史を知り、過去を主体的にとらえ後世に伝えることは、現代を生きる私たちにとって未来に向けて大きく確実に進む力となります。

合併後の市史編さん事業は、平成二十一年三月に市史編さん委員会から答申をいただきました「北見市史編さん基本計画」に沿って、平成二十四年に市史編集委員会を設置し、調査、執筆、編さん事業を進めてまいりました。

市民一人一人が歴史を学び、未来へのまちづくりを進める道標となることを願って、市民の手で史実をまとめた「新北見市史」をここに刊行することができました。

市史編さん委員、編集委員、専門委員、協力員の方々をはじめ貴重な資料や情報を提供してくださった北見市内外の皆様に心から感謝と敬意を表し、刊行に寄せてのことばといたします。